刊行によせて

一九二一年、渋沢敬三により創設された〝アチックミューゼアムソサエティ〟は、戦時中に日本常民文化研究所と改称され（一九四九年、財団法人に認可）、一九八二年には神奈川大学に招致されて現在に至っています。本研究所は、アチックミューゼアムの創設以来、「常民」の等身大の生活文化を明らかにすることを目指して、民具や古文書の収集、整理、漁村・漁業史研究をはじめとする多様な領域を対象に幅広い活動を展開してきました。

とくに、二神島の調査・研究については、財団時代の一九四九年から五五年までの六年間に取り組んだ水産庁の委託業務「漁業制度資料調査保存事業」の一環として、一九五一年から宮本常一・網野善彦・河岡武春らによって着手されています。この調査は数々の成果をあげて終えましたが、一九五四年の訪問時に借用した「二神文書」の一部が神奈川大学に移管されたあとも未返却のままになっていたという問題も抱えていました。神奈川大学常民研では、他調査地の分も含めたこれら借用文書の返却業務を最優先事業と位置づけ、整理作業を終えた文書から順次所蔵者へ返却する方針が立てられました。「二神文書」についても、早速一九八二年にメンバーが二神島に赴き、ご当主二神司朗氏と返却に向けての話し合いを行っています。

この訪問を機に新出文書の発見もあって二神島の再調査の計画が浮上してきました。その後の調査・研究の詳細は本書収録の「調査・研究の軌跡」で述べていますが、調査の進展とともにその対象は瀬戸内海全域まで広がり、しかも歴史学、民俗・民具学、建築史学、考古学など諸学の協同による学際的な研究へと発展していきました。本書は、これまで発表された論考に加え、断続的に進めてきた共同研究の集大成の一部を構成するものであり、末尾に掲載した既刊や刊行予定の成果などと併読しただければ幸いに存じます。

本書を刊行することができたのは、資料所蔵者や地元の皆様をはじめ、関係各位のご理解とご支援があったからにほかなりません。心より感謝申し上げるとともに、今後の前進の糧にしたいと思いますので、大方の厳しいご批判をお願いいたします。

二〇一六年一一月吉日

田上　繁